

①病院名	②H29 病床数	③2025年 の病床数	④再検証対象該当理由
東京大学医科学研究所 附属病院（港区）	135床	122床	A「診療実績が特に少ない」 及びB「類似かつ近接」 （研究関連は評価外）

⑤公的資金の投入状況

<自治体や国からの繰入金、運営費補助、交付税交付金等（経営補助・損失補てんの資金）を記載>

投入状況 （記載） 有or無	有	名称 ※有の場合	
有		国立大学法人運営費交付金	

病院の特色について

1 「得意とする」「重点的に取り組んでいる」主な医療の内容

当院は125年を超える長い歴史を持ち、我国唯一の国立大学附置研究所附属病院として先端医療の開発と実践を設立目的として掲げている。とりわけ、研究所における基礎研究の成果を治療に役立てるための橋渡し研究(トランスレーショナル・リサーチ; TR)や、初めてヒトに投与するFirst-in Human (F-I-H)試験のような早期臨床試験を行うことをミッションとしている。そのため、がん・新興感染症・免疫疾患など現代の難病とされる領域に特化した診療科体制を構築している。実臨床においては標準治療では治りにくい疾患や他の病院では診療経験の少ない稀な疾患を積極的に受け入れるプロジェクト診療を行っている。実際、造血幹細胞移植を含む細胞治療、がんのウイルス・遺伝子治療、ゲノム医療では我国の先鞭をつける役割を果たし、現在も牽引している。この他、HIV感染症や血友病性関節症の診療でも我国の中核的な役割を果たしている。

2 地域の医療機関との連携の状況（例：高度急性期病院との連携、地域の診療所との連携）

- ・当院は、2018年に日本赤十字社医療センター及NTT東日本関東病院との間で連携協定を締結し、それぞれの病院の特徴(小規模プロジェクト病院 vs 大規模総合病院、DPC制度 vs 出来高払い等)を相互補完するような診療連携を行っており、病院間ホットラインも利用している。
- ・積極的に他の医療機関の患者を受入れるため、地域医療連携室に担当職員を配置して対応している。
- ・毎年、医療連携懇談会を開催し、当院並びに各診療科の紹介を行うとともに港区及び関係医療機関との情報交換を行っている。今年度(R1.11.14実施)は、港区だけでなく、近隣の医師会(品川区医師会、目黒区医師会、渋谷区医師会)にも声掛けし、更なる地域医療連携の活性化のため情報交換を行う。(H30:39名、R1:70名(R1.10.31現在))
- ・CTやMRIなどの高度医療機器の共同利用推進に向けて、病院ホームページなどの活用により、地域医療機関に対して積極的な案内を行い、当院での画像検査を受け入れている。
- ・在宅医療を必要とする患者の地域の訪問看護ステーション・医療機関との連携や在宅患者急変時の受入れ等の後方支援を行っている。
- ・理学療法室を拡充を行いリハビリテーションが必要な地域の患者を受入れる体制を整えている。

3 その他、病院の特徴的な取組

今年度から、医学部附属病院、医科研病院、本部の三者での病院経営改善検討会議を始め、医学部附属病院との連携を更に強化するため、①緩和ケア診療の強化、②画像診断の相互利用、③ロボット・低侵襲手術プロジェクトの導入に向け手続き等を進めている。これにより、更なる病院機能強化の促進を図っていくと共に更なる地域医療の促進に貢献することを目指している。

大学医学部附属病院のように学部学生を持たない一方、非MDの修士・博士課程学生が多いため、彼らを対象とする病院実習を10年以上前から実施しており、医療系人材を育てる点で学内では高く評価されている。当院に隣接する港区の在宅緩和ケア支援センターとの間で、コメディカル中心に住民向けセミナー等で連携を図っている。